

第11回「いけいけチャレンジ！遠賀川」発表会

開催日時：平成27年3月7日（土） 13:00～16:00
 会場：遠賀川地域防災施設（遠賀川水辺館）
 目的：「いけいけチャレンジ！遠賀川」は、小中学生が遠賀川等の河川を題材にした学習・活動を発表する会であり、河川環境教育の推進や参加校同士の交流を図ることを目的に実施しています。
 主催：遠賀川河川事務所
 後援：福岡県教育委員会
 運営：中高生のボランティアスタッフ

時間	プログラム
13:00	開会挨拶
13:15	直方市立下境小学校発表（わたしたちが住んでいる遠賀川をきれいに）
13:35	直方市立直方南小学校発表（ビオトープを活かした米作り）
13:55	休憩
14:10	岡垣町立吉木小学校発表（汐入川は豊かな川なのか？）
14:30	飯塚市立目尾小学校発表（4年後に帰ってきてね～願いを込めて～）
14:50	遠賀川流域子ども水フォーラム発表 直方市立直方北小学校5年生 吉峯 雅人さん 「水生生物」 直方市立直方第三中学校1年生 飯野 裕さん 「野鳥がたくさん来る遠賀川に」 小竹町立小竹中学校1年生 森 亮太郎さん 「赤水について」
15:10	休憩
15:20	全体講評
15:35	感謝状授与
15:45	閉会
15:50	記念撮影



■各学校等の発表概要

直方市立下境小学校「わたしたちが住んでいる遠賀川をきれいに」



- ・遠賀川の水質や生き物調査を行った結果についてパワーポイントや劇の形式で発表した。
- ・遠賀川の水質について、パックテストや透視度測定を行った。調査の結果、私たちの住んでいる地域では、水が随分と汚れているということがわかった。
- ・生き物調査は2回に分けて行い、1回目は、遠賀川にすむ魚を採取し、2回目はバードウォッチングを行った。その結果、私たちの周りには多くの生き物が生息していることがわかった。
- ・遠賀川の水質が悪くなってきているので、生き物の気持ちを表現した劇を作り、人間が川を汚していることをうったえ、これからはゴミを捨てないようにしたり、ゴミを拾ったりして、私達にできることを行って遠賀川を綺麗にしていこうと呼びかけた。



直方市立直方南小学校「ピオトープを活かした米作り」



- ・総合的な学習の時間で、水辺館のピオトープで1年間、米作りを行ったことをパワーポイントで発表した。
- ・米作りの学習は、1.田おこし・代かき・種まき→2.田植え→3.看板づくり→4.田んぼの生物調査→5.稲刈り→6.だっこく・もみすり→7.しめ縄づくり→8.炊飯の順に行った。
- ・米作りは、泥に足を取られて作業はとても大変だった。
- ・お米は、「神様のお米」と名付けた。
- ・生物調査では「どんこ」、「めだか」が捕れた。
- ・もみすりは、鉢と野球ボールを使用し行ったが、2合ぐらいしか出来なかった。
- ・お米作りは、時間がかかる大変な作業だということがわかった。
- ・お米作りを行って、食べ物のありがたさがわかった。



岡垣町立吉木小学校「汐入川は豊かな川なのか？」



- ・吉木小学校の側を流れる「汐入川」について調べたことを模造紙を使って発表した。
- ・汐入川の歴史、動物、植物、魚、ゴミ、水質について調べた。
- ・吉木小学校では昭和29年に全児童で石拾いを行ったことがあった。
- ・汐入川には、多くの動物が生息していること、汐入川に黄色い花が咲くのは、川が少し汚れているからだということ、タナゴは敵から身を守るために色を変えることがわかった。
- ・汐入川のゴミは草木類が多く、他には吸殻、空き缶、お菓子の空き袋があった。
- ・水質を科学的に調べるため、パックテストを行った結果、下流が一番汚れていた。
- ・汐入川が汚れているのは、人が捨てたゴミと家庭から流れてくる排水が原因とわかった。
- ・生き物を大切にしていくには、ゴミを捨てず、川の清掃を行って、川をきれいにしていく必要があるということを発表した。



飯塚市立目尾小学校「4年後に帰ってきてね～願いを込めて～」



- ・「さけ」の稚魚放流について、模造紙、パワーポイントを使い発表した。
- ・目尾小学校では平成15年から毎年3月に「さけ」の稚魚放流を行っている。併せて遠賀川の清掃活動も行っている。
- ・稚魚放流によってもたらず環境への効果について調べたことを発表した。
- ・清掃活動では多くのゴミを拾った。ゴミの種類はペットボトル、缶、ポリバケツ、自動車のタイヤ紙クズ、冷蔵庫などの家電製品があった。
- ・川を綺麗にしていくには、ゴミを無くしていくことと、油などの家庭排水をなくしていくことが必要だとわかった。
- ・今後は周りの方々にも、目尾小学校の活動を知ってもらい、活動の輪を広げていきたい。



遠賀川流域子ども水フォーラム発表

直方市立直方北小学校5年生 吉峯 雅人さん 「水生生物」



- ・遠賀川生き物調査隊では、主に2つの活動を行っている。1つ目はパックテストで、COD、PHの調査、2つ目は春の小川で生き物調査を行っている。
- ・春の小川には、タイコウチ、アメンボ、トンボ、メダカ、エビなどが捕れ特にエビが多く見られ、エビを餌としているタイコウチの数も多い。
- ・水フォーラムでは、自転車で河川敷のサイクリングロードを走行し、川の観察を行っている。
- ・遠賀川では、外来種の数が増え在来種の数が減ってきているので、今後、増やしていきたい。

直方市立直方第三中学校1年生 飯野 裕さん 「野鳥がたくさん来る遠賀川に」



- ・水フォーラムで、遠賀川河口堰の見学を行った。そこで多くのカメラマンを見た。
- ・カメラマンは、ミサゴを撮影するために集まっており、そのミサゴは河口堰にある多自然魚道を遡上する魚を狙っている。
- ・私は、野鳥を撮影するためにカメラにはまっており、猛禽類やカワセミを撮影している。特にカワセミに興味を持っている。
- ・カワセミは、川岸の崖に穴を掘って巣を作り、ヤナギの枝等が川に突き出している所をエサの捕捉場所として好むが、遠賀川にはそのような場所が少ない。将来、カワセミだけでなく、野鳥が多く棲む川になることを願っている。

小竹町立小竹中学校1年生 森 亮太郎さん 「赤水について」



- ・赤水が遠賀川に及ぼす影響について調べた。
- ・赤水とは、炭坑跡の坑道に雨水が溜まり、水に鉄分が溶けだし、その水が空気に触れることで酸化するため赤っぽく見える水のこと。
- ・赤水の調査方法として、電気伝導計を使って、赤水、遠賀川の水、水道水の3種類を測定した。また、遠賀川の水と赤水でメダカを飼育してみた。
- ・電気伝導率は、赤水は水道水の2倍近くの数値が確認できた。
- ・メダカの飼育は、赤水では生きられないだろうと予測していたが、約1年間何の影響も見られなかった。
- ・赤水が発生していた水路に生物が見られない理由は、赤水の影響よりもコンクリート張りのために生物が生息出来ないことがわかった。今後、コンクリートではなく自然の川に戻し、生物の棲みやすい環境にして欲しいと思う。